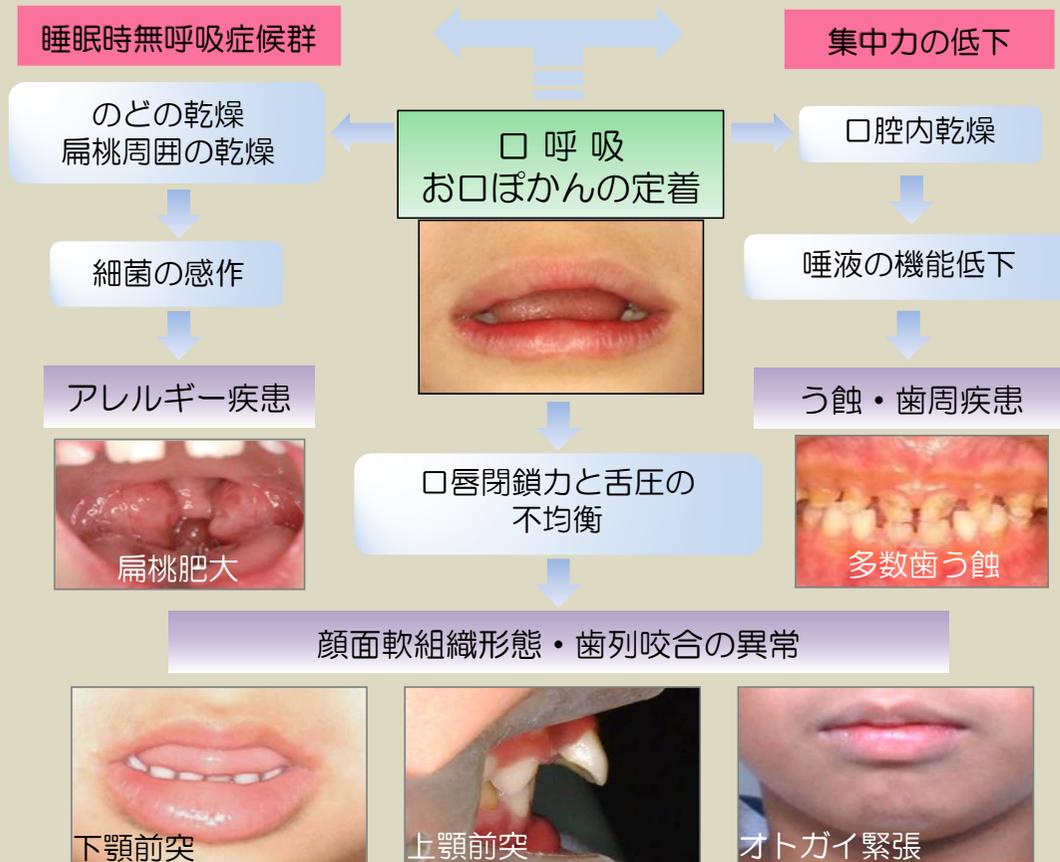


小児の口腔機能の発達に関する臨床研究

背景

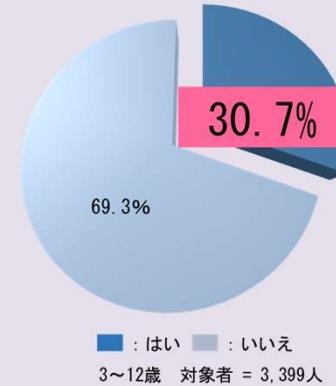
体の成長発育に合わせて食事をしたり話したりする機能つまり口腔機能もまた発達していくので、子どもの口腔機能は小さな大人の機能として理解することはできないのです。成長期には乳歯の交換や顔や顎が成長していきますが、それに合わせて歯並びや咬み合わせも劇的に変わっていきます。その成長に合わせて口腔機能も発達していく必要があります。近年、口腔機能の発達が不十分な（専門用語で口腔機能発達不全症と言います）子どもさんが増えてきているという研究結果が多く報告されています。そのため、口腔機能の獲得が不十分な子どもさんたちへの口腔機能支援がとても重要になってきます。私たちは、この口腔機能支援について「オーラル・ハビリテーション」という造語を定義して、臨床研究や啓発活動を積極的に行っています。

お口ぼかんが続くとどうなりますか？

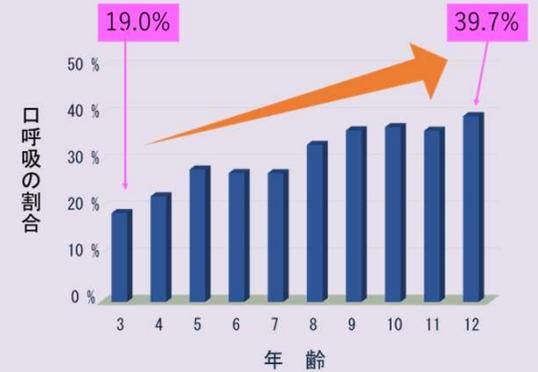


日中よく口を開けていますか？

お口ぼかんの割合



年齢が上がるに連れお口ぼかんが増加



目的

日常的な子どもの「お口ぼかん」は顔の形や歯並びなどに悪影響を及ぼすだけでなく、全身の健康とも大きく関連していることが分かってきています。私たちが行った全国の子どもの対象とした疫学調査の結果から、3割もの子ども達にお口ぼかんが疑われ、海外での報告と比較すると非常に高い結果となりました。

子どものオーラル・ハビリテーションに悪影響を及ぼす様々な要因について臨床研究を行い、診断基準作成や治療法の開発を行っていきます。

なお、私たちの研究グループ（朝日大学、新潟大学、鹿児島大学）は、小児の口腔機能に関する臨床研究では国内外でトップ集団を走っています！

期待される成果

- 小児の口腔から始まる健康長寿
- 口呼吸診断機器の開発と口呼吸診断基準の早期開発
- 小児の口腔機能に関する先端医療イノベーションの創造
- 医療イノベーションを担う人材育成
- 小児の口腔から始まる疾病の認識
- 日本から外国への医療技術機器輸出